

2021年3月期2Q決算
アナリスト・機関投資家向け説明会 主な質問

2020年11月9日
セガサミーホールディングス株式会社
財務経理本部 IR部

- 開催日時 2020年11月6日（金） 13:00～
- 回答者：里見 治紀（セガサミーホールディングス株式会社 代表取締役社長 グループCOO）
深澤 恒一（セガサミーホールディングス株式会社 取締役 専務執行役員 グループCFO）

遊技機事業

Q：中長期での遊技機事業の方向性と、現状の厳しい市場環境下でも、維持したいと考えている利益の水準があれば伺いたい。

A：中長期的には、1,000億円の売上で250-300億くらい（25-30%程度）の経常利益が出せる体質にして行きたいと考えている。

遊技機業界の中で高いシェアを持つサミー(株)は連結で約1,400名規模の人員数になる。これは他社に比べても多い人数規模であり、将来的に利益を出し続けられる事業にするためには、同業他社並みの人員規模にする必要があると考えている。1タイトルあたりの金型費用や開発費等は大きく変わらないため、今後は開発タイトル数を適正化し、販売規模が大きいものに注力していく。

既に着手しているEC販売などの新しい販売方法も推進していきたい。EC販売は、全国に販売網を維持するのが厳しいと考えている中堅メーカー等からの引き合いもあるため、そのようなメーカーに対してEC販売サポート等のサービス提供をすることも考えていきたい。

Q：パチスロ新規機機の需要が引き続き低調な一方で、パチンコの新規機機はヒット商品も現れており、パチンコ需要の回復が先行する局面が続くのではないかと考えているが、このあたりの市場見通しを教えてください。

A：短期的にはパチスロユーザーがパチンコに流れていくといった、パチンコシフトの動きがしばらく続くと考えている。今後市場に投入される新しい基準のパチスロ6.1号機は、市場に受け入れられやすい機種設計が実現できる可能性があるため、パチスロの需要低下の問題が解決されるように取り組みたいと考えている。

Q：市場環境について3か月前（第1四半期の時点）と変化している点を教えてください。

A：当社の『P交響詩篇エウレカセブン HI-EVOLUTION ZERO』や、他社のタイトルでも高い稼働の機種が出てきており、『遊タイム』等の新しいパチンコスペックがユーザーに受け入れられたことが、遊技機市場における最も大きな変化と考えている。ただし、パチンコホール全体の稼働状況についてはあまり大きな変化はなく、まだパチンコホールに戻ってきていないお客様もいるとみている。

Q：『P真・北斗無双 第3章』は当初想定を上回っていると思うが、現在の目標台数をお伺いしたい。

A：現時点で、想定以上の受注がきているので今後の伸びに期待したい。まずは、年内に出荷できる分をきちんと出荷していきたい。これがうまく受け入れられれば年明け以上の追加受注も期待できると考えている。

エンタテインメントコンテンツ事業

Q： エンタテインメントコンテンツ事業の修正計画における下期の営業外収益は 18 億円だが、大半が映画ソニックの配分収入との理解でよいか。

A： ソニックの映画については、配分収入の計上の多くが翌期に発生すると想定しており、今期下期中に取り込む収益は大きく見込んでいない。

その他

Q： 構造改革の効果について、今期から来期にかけて 150 億円の固定費削減を行うとの目標値は達成されたと考えてよいか伺いたい。

A： アミューズメント施設事業関連の連結子会社の譲渡により、「固定費削減 150 億円」ではなく「利益改善額 150 億円」という形に目標は変わったが、希望退職者の募集による 100 億円の固定費削減、アミューズメント施設事業の連結除外による 50 億円の改善を合わせて、150 億円の利益改善額は今回の発表内容でほぼ達成できると考えている。

Q： 構造改革について、今後追加で考えていることがあれば伺いたい。

A： 非事業資産を対象とした BS の見直しに関してはまだ検討の余地があると考えており、引き続き検討を重ねて当期の損失を軽減できるように取り組みたい。

以上